



# いわき

意和氣の心と心でチャレンジ!  
2018  
Chance Change Challenge

由利本荘市立岩城中学校  
No. 50  
平成31年1月21日

## ツウウェイ two-way

### 【記述編】 II

- ・図書委員のおすすめの本「君たちはどう生きるか」を図書館から借りてきました。校長先生もおすすめしていたので読んでみようと思いました。まだ、読み始めたばかりですが、物語が進んでいくのが楽しみです。
- 時代背景が昔過ぎて、生徒にとってはイメージがたいと思いますが…。それでも、哲学者、吉野源三郎の伝えたかった人間としての誇りや生き方・考え方は伝わるのではないかと思います。
- ・来年度の修学旅行ですが、ディズニーランド半日は、並んで終わってしまうのではと思います。2時間～3時間しか滞在しないのはなぜでしょうか。半日だとしても、せめてお昼からなど、変更はないのでしょうか。集団生活、県外学習だとしても、やはり、一番楽しみは遊びだと思えます。来年度から半日なのか、来年度だけ半日なのかと思ってしまいます。子どもが楽しみにしているものであり、今後何回訪れるかわかりませんが、このクラスでの最高の思い出になる修学旅行なので、1日にしてもらいたいです。半日に賛成の家庭は、いないのではないのでしょうか。
- 本校の修学旅行の目的は、(1)旅行地の文化・政治・経済を見聞し、広い知識を身に付け、豊かな情操を育てる。(2)集団行動を通して、きまりを守ること、協力すること、責任を果たすことの大切さを実感させるとともに、友情と信頼を育む。(3)計画や実行に当たって、生徒が積極的に参加することによって、自主性を高める。となっております。以前もツウウェイで答えてありますが、2～3時間ということはありません。昼前から夜までの時間に滞在することになると思えます。1日全部となると、修学旅行の目的達成のためには厳しくなりますし、そこまでしているところはあまりないのではないかと思います。例年と同程度の予定です。
- ・いつも、子どもがお世話になっています。今まで仕事の都合で学校行事にはあまり参加できませんでしたが、今年は3年生なのでできるだけ都合をつけて行くようにしました。初めて見学した運動会と学校祭、とても楽しむことができました。先生と生徒が一体となり保護者を楽しませようとする気持ちが伝わりました。生徒達の熱量がすごく伝わり、私たちが子どもの頃とはまた違う、先生と生徒のつながりや関係性を感じました。きっと、大人になってもこの経験を忘れずに、良き思い出として心に残るものと思えます。



- ・剣道大会、迫力があり、毎年楽しみにしていました。ただ、今年は、4クラスしかないのに、決勝の男女と3位決定戦の男女を、同時に4コートで一斉にだったので、どこを見ればいいのか、どこがどういう状況なのかよくわからないまま終わってしまい、残念でした。せめて、決勝は、ゆっくりと見て応援したかったです。

→各種行事の参観ありがとうございます。参観者・来場者の数は生徒の励みとなります。本校における、生徒が主になって企画する、大きな行事としては、運動会・岩中祭・剣道大会があります。剣道大会については、ご意見を反映できるように対応していきたいと思えます。各種行事等においても、実施内容を反省し、次年度へと改善を図っております。ありがとうございます。



見を反映できるように対応していきたいと思えます。各種行事等においても、実施内容を反省し、次年度へと改善を図っております。ありがとうございます。



- ・中学校生活について、どうしたらいいのか、悩み続けた2年間でした。けれどもあたたかく見守っていただき、話も聞いていただけことが、親にとってありがたいことでした。本当にありがとうございました。岩城中でよかったと心から感謝しています。校長先生でよかったです。ありがとうございました。
- 子育て…、本当に難しいですね(実感)。教育もそうです(実感)。思い通りには、ほぼならない。それでも、諦める訳にはいきません。子どもには、人間としての生きるエネルギーがあります。それを信じて、悪戦苦闘し続けるものだと思います。手をかければ手をかけただけ手のかかる人間になるともいわれます。私は、大したことでできませんでしたが、そう思ってくださいる人が一人でもいてくれただけでも幸せな人生だったと思います。生きてきた甲斐があります。ありがとうございます。私は、次のような言葉も支えにしております。年取ってだんだん分かってきます。

……ひとりひとりが異なった個性をあたえられて生まれてきています。努力しても直らないものは直らない。長所も欠点も、その人の持って生まれたタチではないか。欠点を克服しようと努力するような人は、そういう意図的なタチの人ではないのか。そして、欠点と思われるものには、かならず反面の長所もあるのではないのか。『生きるヒント2』—いま自分を信じるための12章—五木寛之著P24より

・バス通学における、バスの乗降車ルールについて。以前「三年生からバスに乗り、三年生から降りるバスのルールはどうか?」と意見を提出しました。その後、学校便りの中で回答を頂きましたが、納得できるものではありませんでした。

車両後方に三年、続いて二年、前方に一年と、座席を分けるのは分かりやすいと思いますし、後方に三年が乗るために三年から乗りこむのも自然です。ですが、降車に関して言えば、前方から降りた方がスムーズです。世間の常識に照らし合わせてみても、前方を待たせて後方から降りるのは違和感があります。生徒が校外において活動する際に、バスや電車、エレベーターなど公共のものを利用する際にもこのルールを用いているのでしょうか?「通学のバスのみ」に適用される限定的ルールなのであれば、このルールに正当性を感じません。

「昔からこの方法でうまくいっているから」という言葉がありました。それは違うと思います。今このルールは下級生の忍耐の上に成り立っているものであって、すべての人が納得して「うまくいっている」とは思えません。後期の始まり頃に以下のような出来事がありました。ある朝、登校時のバス乗車時刻に遅れてきた三年生がいました。すでに、バス乗車時刻は過ぎていましたが、バスまで走ってくる三年生の姿は見ており、下級生はバスに乗らずに待っていました。遅れてきた三年生がバスに乗り込んだ後に下級生がバスに乗り込み、結果バスは発車時刻が大幅に遅れました。

すでにバスに乗っていた三年生は、外で待っている下級生に対して「先に乗って」と声をかけるなど配慮することもなく、また遅れてきた三年生は待っていた下級生に「待たせて(遅れて)ごめん」「(待ってくれて)有難う」等々の言葉もなく、バスへ乗り込んだそうです。どちらもなんとも思いやりのない行動です。このような行動の背景には、「三年生を優先する」ということを盾に「下級生はどんな時どんな状況でも上級生を待って当然なのだ」というどこか行き過ぎた解釈があるからではないでしょうか。また下級生の意識の中にも(理不尽なことでも先輩には逆らえない…反抗的と先輩に目を付けられるから…)など、ルールの絶対遵守を自らに強いすぎているところがあると感じています。「バスには三年生から乗り、三年生から降りる」と明確に決めることによって円滑に進むことも確かにあるでしょう。けれども上記のように行き過ぎた解釈には問題があると思います。そして「昔から続いている」から、必ずしも「良い」ルールとは限りません。「今」も続けるに値するルールであるのかどうか、見直す必要はありませんか?その上で、もしこのルールを続けていくのであれば、ルールの本質を見失わないように指導していく必要があると思います。

## ↓校報「いわき」No.7より再掲

→今の乗り降りの仕方は、近年指導したわけではなく、おそらく70年以上前(おそらく創立当初から)から続いているものだと思います。私も実は本校に赴任した4年前に、あれっ違和感を感じたものです。その頃職員にも話したことがあります。それでも、しばらく様子を見てみると、なぜか微笑ましくみえてきました。確かに非効率的ではありますが。非効率的な中であっても、なにか秩序というか、これもいいものだなと感じるものがありました。それで、あえて私から変えようとはしてきませんでした。36年間の歴史の中でできあがったものだと思います。数年前に生徒に考えさせたこともあったそうです。その時の生徒はこのままでいいといっていたそうです。学校に来るときと違って、帰りのバスはある意味で無秩序に近い乗り方降り方になっていることが多くあると思います。乗車中のうろさや態度が運転に支障をきたすほどだったそうで、今年は例年にない程の厳しい指導をしております。いろいろな意見、考え方があると思います。生徒と共に考えていきたいと思っています。

→バスの乗降車に関しての、ルールとマナーについては考えて指導していかなければいけないと思っています。おっしやる通り、遅れた生徒のマナーはよくありませんが、3年生の行き過ぎた解釈からきているものではないと思います。そのような解釈もあるのかと初めて認識しました。遅れた生徒が2年生であっても、程度の差はあれ、同じようなことになっていたかもしれません。マナーについては、学校生活の場面で、全校的に学年を問わず、類似したことが少なからず見うけられます。性格にもよりますが、ただ単にいろいろな意味でのソーシャルスキル不足だと思います。3年生だけでなく、2年生にも、1年生にも、バス通学者以外の生徒にも指導が必要だと思っています。また、これは、バス乗降車時だけでなく、生活全般にもいえることなので今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

- ・校報、学校の様子(子ども達の頑張っている様子)がよくわかり、いつもよく見るようにしています。
- ・校長先生の校報「いわき」があとわずかだと思つととても淋しくなります。大変お世話になりました。岩城中(道川小も含めて)での思い出(エピソード)を毎回載せていただけたら楽しいかなあと個人的に思います。よろしくご検討のほどお願いします。

→ご愛? 読んでいただきまして、ありがとうございます。校報含めて各種お便り等は皆、数ある業務をつめて作成しております。文章等のチェックに甘さがあつたりしたと思いますがどうかご勘弁願います。岩城中(道川小も含めて)の思い出(エピソード)を…とありますが、たくさんありすぎて書き切れません。そして、私は、文章を書くことが一番苦手(小・中・高と国語が一番苦手)で、文才が無く、文字・文章に起こすと私の思いが思うように伝わらず、変なことにもなりかねません。本当に、岩城地域(9年間)には大変お世話になったのですが…。お許しください。But一つだけ、「岩城中に赴任した年の8月、1年生いわき市交流事業、廃車寸前のスクールバスでいわき市訪問、38度を超える気温の中でバーベキューは超刺激的、また、いわき踊り体験では予定のおやつであるアイスがぬるいゼリーに変更、記憶から離れません!」どうですか?このようなことを書いたら問題になりませんか…!